

保存版

地震に備えて!



上平間第二町会

日本列島とその周辺 M7 以上の地震

(大正12年～平成23年)

名称	発生年月	マグニチュード	被害状況	
			死者・行方不明	損失家屋
関東大地震	大正 12.09.01	7.9	142,807	576,262
東南海地震	昭和 19.12.07	7.9	1,251	19,367
南海地震	昭和 21.12.21	8.0	1,443	13,119
福井地震	昭和 23.06.28	7.1	3,769	40,035
十勝沖地震	昭和 27.03.04	8.2	33	921
チリ地震津波	昭和 35.05.23	9.5	139	2,830
新潟地震	昭和 39.06.16	7.5	26	2,250
十勝沖地震	昭和 43.05.16	7.9	52	691
伊豆半島沖地震	昭和 49.05.09	6.9	30	139
伊豆大島近海地震	昭和 53.01.14	7.0	25	96
宮城県沖地震	昭和 53.06.12	7.4	28	1,183
日本海中部地震	昭和 58.05.26	7.7	104	987
長野県西部地震	昭和 59.09.14	6.8	29	24
千葉県東方沖地震	昭和 62.12.17	6.7	2	16
釧路沖地震	平成 05.01.15	7.8	1	12
北海道南西沖地震	平成 05.07.12	7.8	230	594
三陸はるか沖地震	平成 06.12.28	7.5	3	72
兵庫県南部地震 (阪神、淡路大地震)	平成 07.01.17	7.2	6,433	104,900
新潟中越地震	平成 16.10.23	6.8	68	16,000
能登半島地震	平成 19.03.25	6.9	358	684
岩手、宮城内陸地震	平成 20.06.14	7.2	23	88
東日本巨大地震	平成 23.03.11	9.0	19,009	24. 3. 10現在

近年起きた世界の大地震

震源地	発生年月日	マグニチュード	死者
イラン南東部	平成 15.12.26	6.6	30,000 人以上
スマトラ島沖	平成 16.12.26	9.1	227,898 人
パキスタン北部	平成 17.10.08	7.6	86,000 人以上
中国四川省	平成 20.05.12	7.9	69,000 人以上
イタリア北部	平成 21.04.06	6.3	287 人
スマトラ島沖	平成 21.09.30	7.5	1,100 人以上
ハイチ	平成 22.1.12	7.0	222,570 人
チリ中部沖	平成 22.02.27	8.8	520 人以上
中国青海省	平成 22.04.14	6.9	2,700 人以上
ニュージーランド南島	平成 23.02.22	6.3	65 人以上

地震発生のメカニズムと活断層

地球の表面は、プレートと呼ばれる岩盤の板でおおわれ、それらのプレートはひと続きでなく、10数枚がジグソーパズルのように敷き詰められている。それらがその下にあるマンツルの熱（約1000～5000度）による対流が原因で年間数センチ程度の速度で動かしています。プレートは互いにぶつかりあったり、一方がもう一方の下に沈み込んだりしています。沈み込む時に出来た溝が海溝で、地震はその周辺で多発しています。

日本列島付近にユーラシアプレート、北アメリカプレートとフィリピン海プレート、太平洋プレートの四枚のプレートが押し合っています。日本列島は北アメリカプレートとユーラシアプレートの上に乗っていて、地震が起きやすい場所にあるといえるでしょう。（図-1）

地震の種類

地震には、一般的に海溝型（プレート境界型）と内陸型（直下型・断層型）に大きく分けられます。地震は日本付近で一年間に約1200回も発生しています。これは全世界で発生する地震の三分の一が日本付近で発生していることになります。（日本は地震の巣と言われる訳です。）

M8（マグニチュード8）を超えるような大きな地震は海溝付近で起こるのが殆んどです。

これに比べて、内陸型の地震は規模はそれほど大きくないですが、生活の場で起こる地震のため大きな被害をもたらします。



図-1

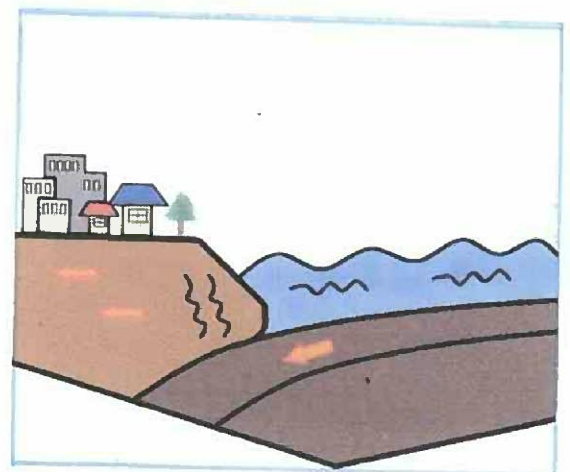


図-2

新聞などで目にする区分の代表は

1・直下型地震

断層による……（断層に割れ目ができそれによって地面が上下している現象）
活断層の活動に伴って発生する直下型地震はプレート境界型地震と較べて規模（マグニチュード）が小さいのが普通ですが、生活の場である内陸部で発生するためたびたび大被害が発生しています。記憶に新しい1995年の兵庫南部地震（マグニチュード7.2）や1891年の濃尾地震（マグニチュード8.0）も直下型地震であり、ともに六千人～七千人の人命が失われています。

2・海溝型地震

プレート境界型……日本列島の太平洋側の海底では陸のプレートの下に海のプレートが沈み込んでいます。海のプレートが、陸のプレートを矢印のほうへ引きずり込み、引きずり込まれた陸のプレートの元に戻ろうとする力が、プレート同士の摩擦力より大きくなると、陸のプレートが跳ね上がりずれや破壊を起こします。この時起きる振動が地震、この地震のことを海溝型地震と言います。海溝型にはマグニチュード8程度以上の巨大地震である関東地震、東海地震、南海地震等があります。（図-2）

他にプレート内地震の一部も直下型地震と呼べる場合もあります。このようなあいまいさはありませんが人の住む都市の直下で発生する比較的浅い地震、すなわち被害と直結するような地震を総称して直下型地震と表現されるようです。

地震の影響

地震は、それが頻繁に起きる地域に住む人たちにさまざまな影響を与える。建物や橋、ダムを破壊し、多くの人命をうばう。

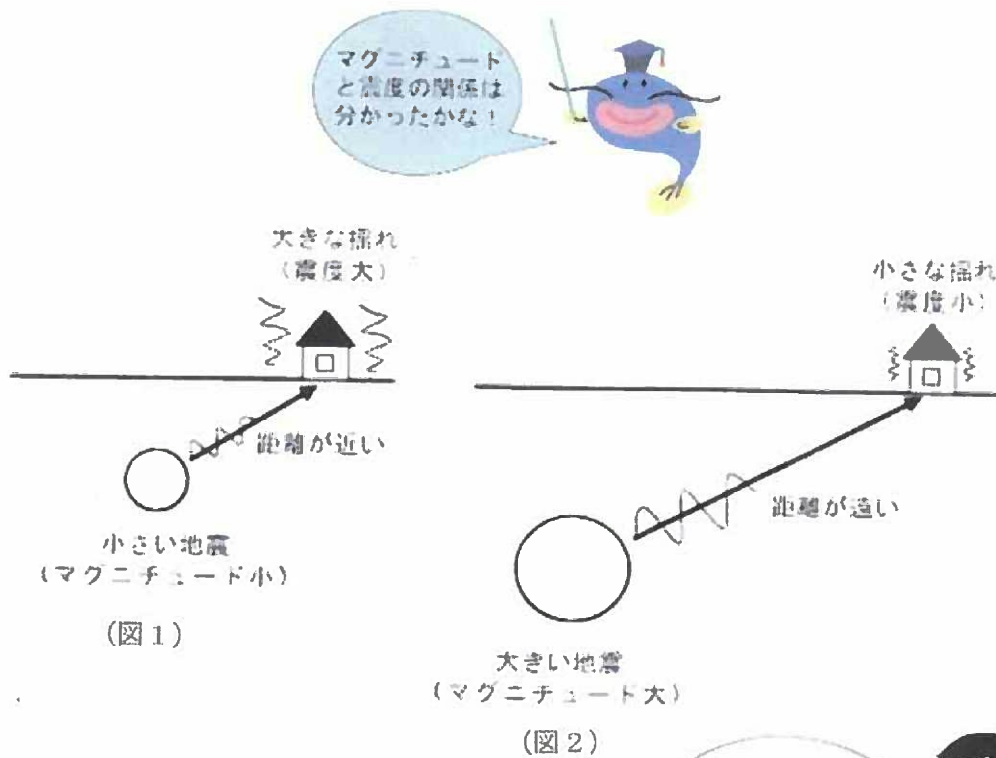
地滑りを引き起こし、土地を荒廃させる。また都市では大火災を引き起こす。関東大震災や阪神淡路大震災では、建物の倒壊だけでなく、多くの人が火災によって死亡した。もうひとつの地震にともなう破壊的な現象として、津波がある。津波は人々が多く住んでいる海岸線をおそい、街を破壊してきた。

1896年（明治29年）に三陸沖で発生した明治三陸地震津波では、震害は小さかったが津波により二万人以上もの生命がうばわれた。

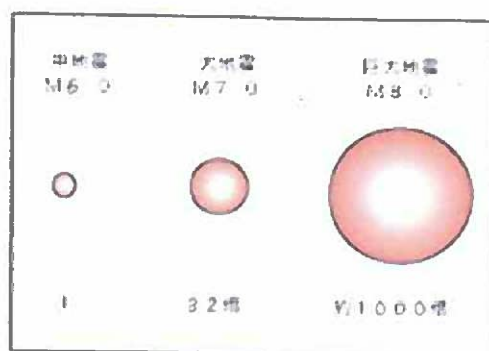
マグニチュードと震度の違い

「マグニチュード」は地震そのものの大きさ（規模）を表すものさしです。一方「震度」はある大きさの地震が起きた時の私たちが生活している場所での揺れの強さのことを表す。

マグニチュードと震度の関係は、例えばマグニチュードの小さい地震でも震源から距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。（図1）またマグニチュードの大きい地震でも震源から距離が遠いと地面はあまり揺れなく、「震度」は小さくなります。（図2）



マグニチュードは1増えると地震のエネルギーが32倍になります。マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の32個分のエネルギーを持っていることになります。



※マグニチュードが1増えると地震エネルギーは約32倍

地震の規模

震度	呼び名	揺れの程度
0	無感	地震計（震度計）が検知し、人は揺れを感じない。
1	微震	敏感な一部の人が、わずかな揺れを感じる。めまいと錯覚する事もある。
2	軽震	屋内にいる人の多くが揺れを感じ睡眠中の一部の方は目をさます。 天井から吊り下げた電灯が数センチの幅でゆれる。
3	弱震	殆んどの人が揺れを感じる。揺れる時間が長く不安や恐怖を感じる人が出る。 重ねた陶磁器等の食器が音をたてる。
4	中震	殆んどの人が恐怖感があり、身の安全を図ろうとする。机の下に潜る人が現れ 睡眠中の方は目をさます。吊り下げたものは大きく揺れ、重心の高い置物等が 倒れることがある。
5弱	強震	多くの方が身の安全を図ろうとするが、一部の方は行動に支障を感じる。窓ガ ラスが割れ、落ちたり、ブロック塀の崩壊、自動販売機が倒れたりすることが ある。軟弱な地盤では亀裂が生じることがある。
5強	強震	非常な恐怖感を感じ、多くの方が行動に支障を感じる。棚の中にあるものやテ レビも台から落ちることもある。変形によりドアが開かなくなることもある。 耐震性の低い住宅では壁や柱が破損するものがある。自動車の運転が困難。ガ ス、水道管が利用できないケースもある。
6弱	烈震	立っていることができなくなる。固定していない家具の多くが転倒、ドアが開か なくなる、かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、など耐震性の低い 住宅では倒壊するものがある。またエレベーターが止まったりすることもある。
6強	烈震	立っていることが出来ず、はわないと動けない。耐震性の低い住宅では殆んど 倒壊する。耐震性の高い住宅でも壁や柱がかなり破損するものがある。広範囲 で停電やガス水道が止まることもある。地割や植木の少ない地域では山崩れが 発生する。
7	激震	揺れに翻弄され、自分の意思で行動が出来ない。殆んどの家具が大きく転倒し 飛ぶものもある。耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。 主要ライフラインの供給が停止し、大きな地割・地滑り・山崩れが発生す る。

震度とは

地震が起きた時の私たちが生活している場所での揺れの大きさを表し、日本では気象庁が
10階級（0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7）に分かれたものが使われて
います。

地震の規模を表す指標の一つにエネルギー量を示すマグニチュードがあり「M」と書き表します。

地震の大きさとマグニチュードの関係

地震の大きさ	マグニチュード Mj
極微小地震	1 以下
微小地震	1 ~ 3
小地震	3 ~ 5
中地震	5 ~ 7
大地震	7 以上
巨大地震	8 クラス

世界の年間平均地震発生回数

マグニチュード	回 数
8.0 以上	1
7.0 ~ 7.9	17
6.0 ~ 6.9	134
5.0 ~ 5.9	1319
4.0 ~ 4.9	13000
3.0 ~ 3.9	130000
2.0 ~ 2.9	1300000

かつては、震度は気象庁職員が体感で決めていた。

かつては、震度は測候所職員の手によって震度報告がされていました。これは人間の体感や室内の様子、周囲の状況などの観察結果にもとずいて測候所の職員が総合判断として人間的な尺度でした。しかしこのような震度の決め方には

① 人間の主観が入る。 ② 震度の決定に時間がかかる。 ③ 震度報告の地点数が限定される。

以上のような問題点を解決するため、1995年阪神淡路大震災の翌年震度の決め方は、それまでの人間中心の方式から計器による自動決定の方式へと大きく改められました。

液状化現象とは

新潟地震などで報道され、また阪神・淡路大震災でも一部にみられた「液状化現象」について簡単に説明します。

一般に、地盤は土や砂、水、空気などで構成されています。その中でも、液状化現象が起こりやすい地盤といわれるのは、海岸や川のそばの比較的地盤がゆるく、地下水位が高い砂地盤などです。地震の時に発生する液状化現象は、このように建物を壊したり、地中に埋められた配水管、下水管、マンホール等が地面に浮き上がり、生活に必要な施設に重大な被害を起こす可能性があります。

図-1は、砂などの粒がお互にくっついて、その間に水がある状態です。

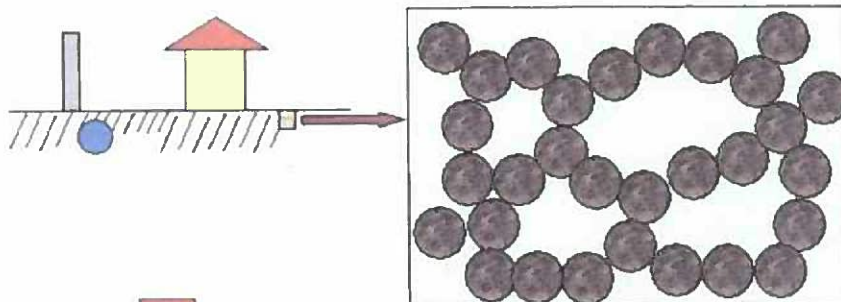


図-1 じばん 地盤 のなりたち

この状態の地盤が、地震でゆさぶられる。

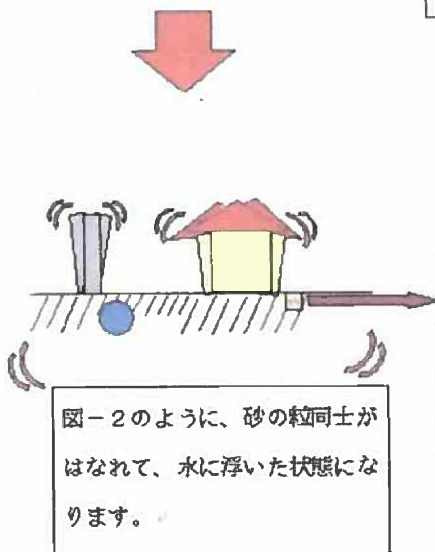


図-2のように、砂の粒同士がはなれて、水に浮いた状態になります。

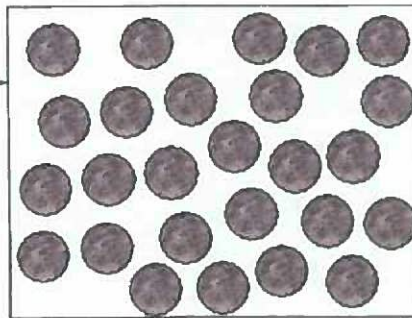


図-2 液状化した じばん 地盤

液状化現象により、建物(アパートなど)は傾き、土管やマンホールなど地中に埋められているものが地面に浮き上がってきます。

図-3は、液状化現象がおこったあとの状態です。

図-2で、バラバラになった砂の粒が沈んで、地面に水が出てきています。また、地面の裂け目から砂まじりの水が噴き出すことがあります(噴砂)。

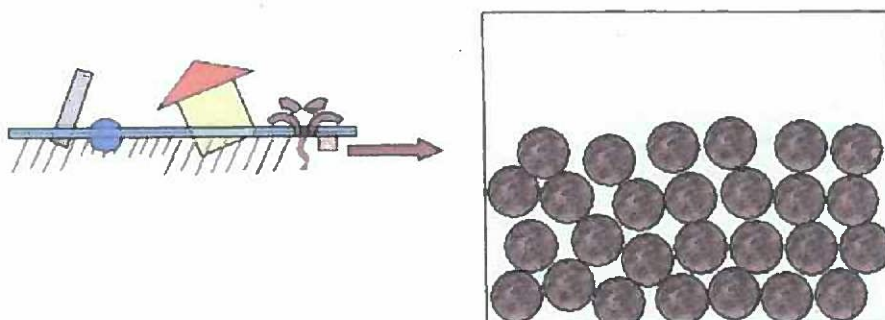


図-3 液状化した じばん 地盤

高波・高潮・津波の違い

高波・高潮・津波とは、いずれも海の引き起こす災害ですが、その原因や性質はずいぶん違います。

「高波とは」

波は海面上で風が吹くことで発生します。当然強い風が吹くほど高い波が発生するわけで、台風の接近した海域では場所によっては10mを超える高波が発生しますし、冬の日本海で波が荒いのもシベリア高気圧がもたらす強い季節風が原因です。(図-1)

「高潮」

高気圧、低気圧と普段なにげなく言っていますが、そもそも気圧とは空気が周囲を押す圧力の大きさのことになりますから、図-2のように気圧が高ければ海面を強く押され逆に気圧が低い時には海面を押す力が弱いために水位が上がることになります。風が強い場合には強風によって海水が岸に向かって吹き寄せられて、さらに潮位が高くなります。台風が来た時に高波と高潮があわさって被害をもたらすのはこのためです。

高潮が被害を及ぼすかどうかに関わる大きな要因が潮の満ち引きです。満潮の時間帯で、もともと潮位が高くなっている時に高潮でさらに海面が上昇すると、あっという間に海水が陸に押し寄せて被害を及ぼします。

この他に潮位に影響を及ぼす要因として海水温があげられます。水温が高くなると海水が膨張する為潮位が上昇します。この為夏場に潮位が高くなることもあるほか、黒潮などの暖水流が異常潮位の原因となることもあります。

「津波」

海底で地震が発生して地盤が隆起したりすると、地盤の動きに合わせて海面も上下します。

この海面の動きが同心円状に広がっていくのがつなみです。

高波や高潮と比べて恐ろしいのが津波の威力とスピードです。普通の波は海面近くの海水だけが風により動かされているのに対して、津波は海底から海面全体がじわじわと上昇するのに対して、津波は水深5000mの外洋ではジェット機並みの時速800キロ、

水深100mの場所でも時速100キロ以上の速さだ伝搬します。例えば1960年に

南米のチリ沖で発生したマグニチュード8.5の地震では約15時間後にハワイ諸島で

最大10m以上の、そして地球のほぼ真裏にあたる日本でも地震発生から約1日後に

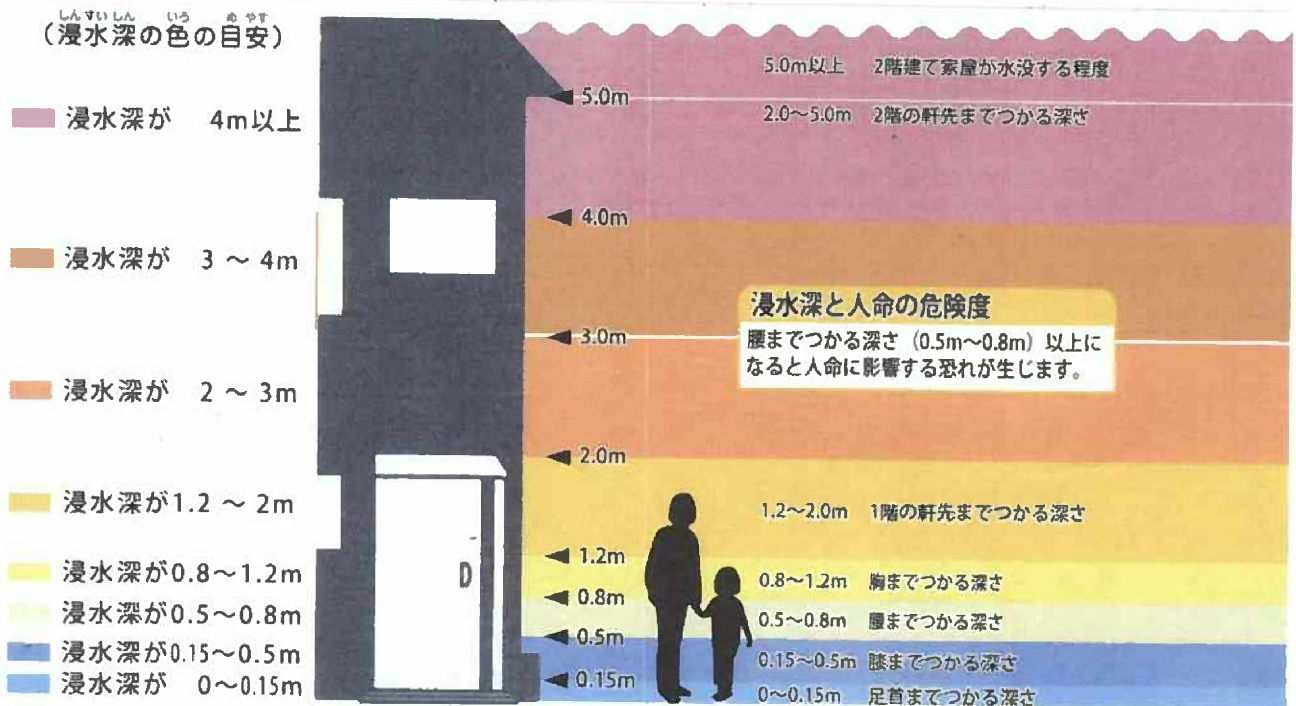
数メートルの津波が押し寄せる被害を及ぼした。津波や高潮の注意報・警報が出ているときは用もなく海岸に近づかない、そして津波の注意報・警報が出た時はとにかく高台へ逃げる。これがかんじんです。(図-3)



図-2

浸水深と危険度

河川の氾濫による洪水や津波等によつての
浸水深と危険度を示した表



浸水深と車の危険度

- 0.7m ドアが開きにくくなります。
- 0.5m 車が流されます。
- 0.3m マフラーから水が逆流してエンジンに水が浸入します。
- 0.1m ブレーキが効きにくくなります。



地震から身を守る手引き

グラグラッ!! 地震だ!! それ逃げろ!! まずこうした行動は避けなければならない。
震源地との相関もあるが、老朽家屋は別として建物が一瞬にして潰れるような事はない。
逃げるといふ行動は生命を守るための最終の手段であって、その前にやらなければならない大切なことがいくつかある。はやる心を落ち着かせ、まず何をしなければならないか判断し行動することである。

- 1 身の安全確保・・・・・・・・屋内なら机やテーブルの下など、但し阪神大震災で犠牲者の84%が建物、家具倒壊等による圧死、そこで建物倒壊の恐れがあるときは状況判断のうえで戸外へ避難。
 - (A) 過去の地震被害の例から見ると、建物の1階より2階の方が比較的安全であることが多い。
 - (B) 寝室は寝ている間に地震が起きると一番危険な場所になります。寝室に家具を置く場合は、転倒防止又は倒れても人に当たらないよう工夫する。
 - (C) 台所やリビング等のガラス類の入った家具の点検をして下さい。開き戸等のガラスはフィルムを張るなどして飛散の防止をしましょう。又開き戸は揺れても開かない様に止め金で止めておくようにしましょう。
 - (D) 家具の転倒防止や、高い所に物を置かない様に。
- 2 すばやく火の始末・・・・・・・・直ちに消すか、離れた場所では揺れが収まってから消す。
- 3 火が出たら初期消火・・・・・・・・壁板から天井へと燃え移るまで3～5分かかり、大揺れ(約1分)が収まってから消す。あきらめずに消す。
 - (A) 消火用品、防火用品の置き場所や使い方も習熟しておきましょう。
 - (B) 灯油、食用油の場合。
 - ㊦ 消火器で消す。
 - ㊧ 大量の野菜や、ぬれタオルを一気にかぶせ油温を下げてください。
 - ㊨ 大きな蓋を手前の方からすべらせて、空気を断ってください。

(C) 石油ストーブが倒れた時、油が広がらない様に引き起こす。

㊦ 消火器で消す。

㊧ バケツの水を燃えている上から一気にかぶせるようにかけて消す。

㊨ 毛布等をかぶせ、その上から水をかけてけす。

(D) 電気器具や配線等の火災の場合

電気火災は、感電の危険があるので、ブレーカーを切る。コンセントを抜く。スイッチを切る等をして電流を断ってから消す。

4 出口の確保・・・・・・・・・・出口のドアが変形し開かなくなるケースがあり戸外に避難出来なくなる。

5 あわてずに外に逃げる・・瓦やガラスの飛散、看板等の落下物に注意、あわてて素足の避難は危険。

(A) 家のガラス戸には飛散防止用にフィルムを貼るなりカーテンを引くなりする。

6 避難経路の確認・・・・・・・・・・落下物、ブロック塀等に注意、事前に安全な避難経路を確認

(A) 自宅のブロック塀の点検。人が通っているときに倒れると怪我をしますので古くもろくなっていたら、安全な物に変えることも考えましょう。

(B) 地震直後に余震を避けてひなんする。第一避難所をご近所の人と相談して下さい。

(C) 地域にある市指定の避難所（最寄りの小・中学校）が何処か名前と場所を確認して下さい。

(D) 避難の道順は最短距離を優先するのではなく、道路の道幅や電柱のトランスの有無、その他危険がないか確認して安全性を第一に選んでください。

(E) 上の条件に照らして二通りの道順を選んで下さい。

- 7 隣近所の助け合い・・・家族の安否確認、ご近所の安否確認、倒壊家屋の中に閉じ込められた場合、災害救助隊の連絡網にのせて救援を頼む。
- 8 備蓄品、非常持出点検・・・地震が発生してから警察、消防、行政の救援は期待出来ません。その為3日間は自分たちで生き抜かなければなりません。
- (A) 飲料水、食料品の備蓄は冷蔵庫の残りものに頼る事なく3日分は非常用を用意しておいて下さい。
- (B) 防災器具の準備はリストに基づき計画的に用意してすぐに利用できるようにしておきましょう。
(リストは別表)
- (C) 非常持ち出し品はリストに基づき計画的に用意してすぐ持ち出せるように置き場所を指定しておきましょう
(リストは別表)
- 9 協力しあって応急救護・・・地域ぐるみで応援、救急医薬品や三角布の使用法や蘇生法等の応急処置法を知っておきましょう。
- 10 災害から子供たちを守るための心得・・・運動場では、建物、塀、バックネット、等から離れ中央部に集まって、教職員の指示を待つ。
- 通学路が危ない事もあるので、勝手に帰宅しない。又学校側も、無理に帰宅させない。保護者が迎えに来た時は氏名を確認してひき渡す。
- 11 公共の避難所・・・事前に一時避難所を指定、避難者確認のうへ救援物資が届く本部に移動。
- 12 家族との連絡・・・勤めや、通学、所用の為に家を離れた家族との連絡方法を決めて手帳等書き留めておくなどしておきましょう。
- (A) 電話の不通、交通の混乱の際はどんな方法があるか。通勤、通学先の条件も配慮して連絡方法を考えておきましょう。

(B) NTTの伝言ダイヤルの使い方(携帯・固定、両方OK)

- 171
- ① → 自宅の電話番号(市外局番よりダイヤル)(安否を伝えたい)
 - ② → 相手の電話番号(市外局番よりダイヤル)(安否を知りたい)

家族で備える必需品(3日分は確保しておきたいもの)

<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> ポリタンク	<input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> 簡易コンロ	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ	<input type="checkbox"/> ろうそく
<input type="checkbox"/> マッチ・ライター	<input type="checkbox"/> 防災ずきん	<input type="checkbox"/> 運動靴
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ゴミ袋	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ・電池
<input type="checkbox"/> 避難ロープ	<input type="checkbox"/> 家庭用消火器	<input type="checkbox"/> 医薬品セット(常用薬)
<input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き	<input type="checkbox"/> ビニールシート	<input type="checkbox"/> ホイッスル
<input type="checkbox"/> 衣料(肌衣、下着)	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> バケツ
<input type="checkbox"/> 電話番号控え	<input type="checkbox"/> 洗面用具	<input type="checkbox"/> 軍手
<input type="checkbox"/> チリ紙	<input type="checkbox"/> 生理用品	<input type="checkbox"/> 紙・記入用マジック
<input type="checkbox"/> スリッパ	<input type="checkbox"/> 縄はしご	<input type="checkbox"/> 予備燃料(固形・ガス)
<input type="checkbox"/> キャンプ用食器セット	<input type="checkbox"/> 現金・小銭	<input type="checkbox"/> その他

非常持ち出し品(リュックサック等に入れてすぐ持ち出せる物)

<input type="checkbox"/> リュックサック	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> 現金
<input type="checkbox"/> 医療品セット(常用薬)	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> チリ紙
<input type="checkbox"/> 電池	<input type="checkbox"/> 紙・マジックインキ	<input type="checkbox"/> ホイッスル
<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> 懐中電灯
<input type="checkbox"/> 紙おむつ(大人用も)	<input type="checkbox"/> 健康保険証 (若しくはコピー)	<input type="checkbox"/> 親戚・知人・友人の 連絡メモ
<input type="checkbox"/> 粉ミルク		
<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> ミネラルウォーター
<input type="checkbox"/> 現金・通帳・印鑑 契約書や権利書のコピー		<input type="checkbox"/> 生理用品
		<input type="checkbox"/> その他

○ 月 日(日) 救急救命訓練

○ 月 日(日) 防災訓練

上記計画しておりますので是非訓練に参加しましょう。

心得ておきたい12ヶ条

1. 防災とは、危険を知ることにある。
(安全と言う神話はない)
2. わが身と家族の身の安全を第一に。
(危機感を持ち その為の備えが不可欠である)
3. グラッと来たら、火の始末。
(火災の原因ともなる。)
4. あわてて外に、飛び出すな。)
(落ち着いて安全な場所へ移動)
5. 扉を開けて、出口の確保。
(ただちに脱出、ルートを確認)
6. 屋外では頭を保護し、危険なものから身を避けよう。
(瓦や割れたガラスが降って来る、又古い建物やブルック塀、自販機に注意)
7. 備蓄品・非常持ち出しの点検。
(保存食品の消費期限の確認・・・*ローリングストック)
8. 想定を信じるな。
(想定外を想定する事)
9. 狭い路地、ブロック塀のそば、川べりなどに近寄らない。
(どんな危険が待ち構えているかわかりません)
10. 皆で協力しあって応急救護。
(隣近所の助け合い、弱者救済)
11. 避難の時は徒歩で、最小限の手荷物で。
(車での避難は控える)
12. デマで動くな、正しい情報で行動。
(情報を確認してから行動しましょう)

防災に関する意識調査

2011年、第二町会全世帯を対象に防災対策の実態を把握する意味でアンケート調査を実施、その結果注意すべき重要事項が幾つか浮び上がってきました。

そこで、少しでも意識の向上に繋がればと、ここに結果の一例を記述してみました。

今回、配布数1247世帯で、回収数910(73%)、未回収337(27%)

Q ・災害時の家族の役割分担を決めている。(18.7%)

家族の集合場所を決めている。(55.9%)

家族の連絡方法を決めている。(47.9%)

伝言ダイヤルを知っている (57.7%)

*災害は家族が一緒にいるときに発生するとは限りません。日頃から万が一に備えて集まる場所や連絡方法について決めておくことで安否の確認ができる。

Q ・転倒防止をしている。(29.6%)

家具の上に重い物を載せていない。(70.8%)

*日頃から家具類の適切な配置や転倒防止処置によって、家の中に安全な空間を確保しておきましょう。家具や大型電化製品が凶器になる。

Q ・防災用品・非常持ち出し用品を準備している。(42.1%)

非常食品・水など最低3日分は準備している(47%)

*日頃から常に万全の準備をしておくことが大切です。家族構成を考えて防災グッズを揃え、保存食や飲料水は消費期限が過ぎていないか定期的にチェックしましょう。水は成人一人当たり1日3リットル必要です。

Q ・お風呂の水は何時も溜めている(46.6%)

*風呂の残り湯は捨てずにとっておけば、トイレや洗濯の水として使用できます。

Q ・避難所とそのルートを知っている(61.4%)

避難所へ行ったことがある。(63.6%)

*第二町会の避難所は「平間中学校」です。避難所では円滑な運営のためにも、1人1人がルールを守って助け合う気持ちを持ちましょう。

Q ・隣近所の人を知っていて挨拶をする。(86.2%)

隣近所に知り合いが多く付き合いも多い(38.9%)

*遠くの親戚よりも、近くの他人。

Q ・応急救護の方法・仕方を知っている。(29.1%)

*町会で実施している「救急救命講習会」に是非参加してください。

- Q ・地震が起きたら冷静に「判断・行動」する自信がある(29.8%)
*いざ地震が発生したら何をすべきか日頃から学習しておく。
- Q ・防災訓練に参加した事がある。(59.5%)
救急救命訓練に参加した事がある。(45.9%)
*消火訓練や応急救護は1人では思うように練習できません。そこで町会の防災訓練や救急救命訓練は絶好の機会です。訓練の体験を学習したことで助かった事例が多くある。
- Q ・防災の知識がある。(22.7%)
*上記の全てを学習する事にあると思います。
知識は頭で考えるだけでなく、いざという時どれだけ行動に反映されるかである。防災知識が今回の東日本災害で生死が分かれたケースがある事を考えた時、人ごとではない。自分の身は自分で守る事を真剣に考えましょう。
- Q ・地域の「危険度や特性」を知っている(危険場所・液状化地域)(18.2%)
* 1 地域の特徴
2 地域に起こりうる被害
3 地域の特性を踏まえて被害を軽減させるためには、地域住民として日頃から何を準備してどのような対策をしておくことが必要と考えられるか。

川崎市沿岸部の津波浸水予測図



東日本大震災では、川崎港の潮位が1・6m上昇。県が3月公表した「津波浸水予測図」によると、予想される最大規模の地震が起きた場合、最高3・7mの津波が押し寄せる可能性がある。市中心部の川崎競輪場(川崎区富士見)より東南方向の住宅地は水深2m以下の浸水、臨海部の工業地帯も広範囲で浸水するとしている。

市防災計画見直し

東日本大震災の経験を踏まえ、川崎市は防災体制の大幅な見直し作業を進めている。津波の避難所や帰宅困難者の滞在施設を明示した、新たな地域防災計画を策定するほか、停電に備えて高層マンションに飲料水や食料の備蓄を求めるなど、「災害に強い街」づくりを急ぐ。

(長谷部耕一)

津波避難 民間、県施設でも

帰宅困難者に滞在施設指定

震災を受け、市は修正作業中だった地域防災計画の見直しに着手した。津波対策を強化し、今年3月、津波の影響が予想される川崎区の小中学校30校や市営住宅3か所など、3階建て以上の40施設を津波避難施設に指定した。現在、民間や県の施設の指定作業も進めている。また、震災時に、川崎駅地下街などが行き場のない帰宅困難者たちであふれた経験を踏まえ、主要駅周辺で一時滞在できる公有・民有施設の指定も急いでいる。

市民の意見などを反映させた上で、来年5月頃の完成を目指す。市はさらに、マンションなど高層集合住宅の施設整備要綱を新たに制定した。施行は7月からで、地震で電気が止まった場合に備え、10階以上の集合住宅を対象に、敷地内に停電時でも使えるトイレを設置してもらうほか、5階ごとに飲料水や食料の備蓄を求める。このほかにも、コンビニ店やガソリンスタンドなどに協力を求め、徒歩での帰宅者に情報、飲料水、トイレなどを提供する「災害時帰宅支援ステーション」の拡充を図る。市臨海部の企業を対象に、津波警報や避難勧告を伝達する防災訓練の実施も検討している。市危機管理室は「今後は各区ごとに、地域の実態に即した防災に取り組む」としている。

自助・共助・公助の連携で、県の防災力を高めます ~県地震災害対策推進条例

自助

地震に備え食料を備蓄したり、地震発生時に迅速に避難するなど、自らの身を自ら守る



共助

地域などで、互いに協力し、助け合って初期消火や避難を行う



協働

公助

県、市町村、国等が消火・救助など応急活動を行う



大規模地震や津波から「いのち」を守るには、県民一人一人が行う「自助」、県民が協力して助け合う「共助」、県や市町村などが行う「公助」の連携が重要です。

そこで、県では、県地震災害対策推進条例を制定し、市町村、国等と連携して地震災害対策にしっかりと取り組むとともに、県民や事業者による自助・共助の取り組みを進めていきます。

条例の内容を紹介

2面に続く

川崎市の地震被害想定

川崎市が想定する地震

*川崎直下地震 (M7.3) 阪神淡路大震災のマグニチュードと同じ規模で
中原区内で震度6強 (幸、高津区で震度7) を想定。

*関東大震災 (M7.9) よりマグニチュードを大きくした地震規模 (M8.2) の
海溝型地震 (相模トラフ)
中原区内は震度6弱 (宮前区で震度6強) を想定

*川崎市が想定する津波被害の想定地震

本市での揺れは大きくないが (M8.5) の最大クラスの津波が生じる地震として
想定している。

広域的な津波 (千葉～九州) の発生 (東扇島で3.71m) を想定

川崎市が想定する地震被害

	川崎市内 (冬の18時)	中原区内 (冬の18時)	備考
人口	1,449,140人	240,241人	平成25年11月1日
人的被害	死者 1,143人	293人	
	重軽傷者 18,975人	4,312人	
建物棟数	249,368棟	35,775棟	平成24年の調査
建物被害	全半壊 90,562棟	16,904棟	
延焼被害	焼失棟数 17,372棟	4,161棟	

新たな被害想定

・帰宅困難者の発生

・武蔵小杉周辺

屋内滞留者 25,297人

(駅周辺で学校・職場の目的で滞留)

屋外滞留者 4,745人

(駅周辺で私用、その他の目的で滞留)

※上記は、中原区役所 危機管理室の資料に基づいて作成。

{ 事例 }

命を守った防災教育

2011

これは5月4日、TBS朝の番組で「命を守った防災教育の3つ」と題して放映、その内容は、釜石東中学校の生徒と隣の鶉住小学校の児童292人全員が無事避難出来、これもただ逃げるだけでなく、日頃の防災教育が力を発揮したのだと言っている。今回の津波で

3つの教えが子供たちの命を守ったという事ですが、その3つの教えとは.....

一つ目.....想定を信じるな

「地図の上では、浸水地域でもなかったにもかかわらず10メートルの防潮堤を超えた大津波が発生、すなわち ハザードマップ は想定で、相手は自然。」

信じてはいけない !!

二つ目.....最善を尽くせ

「津波の大きさは関係ない、その時に出来る最善の避難をすれば良い。」

三つめ.....率先避難者たれ

「我先に逃げる姿を示すことが周囲の警告となる。」

大人達は子供達（生徒）が避難する姿を見て一緒になって避難場所を目指し

中学生は津波がくる中「お年寄りの手を引き、車いすを押し園児をおんぶし

率先して生徒達が弱者を守り600人が一団となって逃げました。

ここの中学生は「助けられる側でなく、助ける側」を意識していたという。

これも防災教育のたまものだと。

はたして私達でしたらどう行動していたでしょうか？この機会に9月に救急救命、

10月に防災訓練、合わせて心の備えをされてはいかがでしょうか !!

平成26年度4月現在

本 部 長
秋元 宏之

副 本 部 長
山上 正
草薙 貞夫

区 分	情報部	消火部	救出救護部	避難誘導部	給食給水部
部 長	茂木 久夫	鈴木 治夫	丹野 政記	加藤 秀樹	黒沢 六次
副部長	高野 忠雄	石川 三吉	井出 広夫	井上 安弘	小島 八重子
班 長	伊藤 龍一	水嶋 克己	小島 茂治	小島 宗時	近藤 智子
	田島 信春	小野塚 誠一	小玉 和孝	井出 教子	鳥澤 重子
	滝口 園美	三橋 克己	小島 幸生	村石 貞子	江原 照子
		田村 保夫		浜口 やす子	遠藤 容子
		福田 忠夫		各区 理事	持木 幸子
		沼田 陸利			和田 和江

一時避難所

- | | |
|----------|------------------|
| ・ 避難所 | 平間中学校 (511-3502) |
| ・ 広域避難所 | 多摩川河川敷 |
| ・ 防災備蓄倉庫 | 平間中学校 |
| ・ 応急給水拠点 | 平間小学校・平間中学校 |
| ・ 消防団 | 玉川分団 (上平間班) |
| ・ 火事、救急車 | 119 |
| ・ 警察 | 110 |

主な連絡先

- | | |
|--------------|--------------|
| ・ 上平間第二町会会館 | 541-6930 |
| ・ 川崎市役所 | 200-3113 |
| ・ 中原区役所 | 744-3113 |
| ・ 中原警察署 | 722-0110 |
| ・ 中原消防署 | 411-0119 |
| ・ 中原消防署刈宿出張所 | 435-0019 |
| ・ 東京電力 | 0120-99-5772 |
| ・ 東京ガス | 245-2211 |

主な医療機関

- | | |
|------------------|----------|
| ・ 中原休日急患診療所 | 722-7870 |
| ・ 菊岡医科大学 | 511-2785 |
| ・ 玉川医院 | 533-0234 |
| ・ 小林医院 | 555-3850 |
| ・ 土井小児科 | 522-1423 |
| ・ 内川整形外科 | 555-5331 |
| ・ ナカオカクリニック | 544-1266 |
| ・ 中橋メディカルクリニック | 555-5553 |
| ・ 二宮内科小児科クリニック | 541-0456 |
| ・ 平間クリニック | 431-0802 |
| ・ 亀ヶ谷医院 | 411-0011 |
| ・ 関東労災病院 | 411-3131 |
| ・ 聖マリアンナ医科大学東横病院 | 722-2121 |
| ・ 日本医科大武蔵小杉病院 | 733-5181 |
| ・ 川崎市井田病院 | 766-2188 |